

2021年3月17日

国土交通省九州地方整備局長 村山一弥様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康  
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13

## 白川の流域治水に関する抗議文

昨日3月16日に国土交通省熊本河川国道事務所ホームページに掲載された記者発表資料によると、明日3月18日に「第2回 白川・緑川水系流域治水協議会」が開催されるとのことです。

流域治水とは、流域のあらゆる力を集めて豪雨災害を防ぐ、という考え方です。しかし、「第2回 白川・緑川水系流域治水協議会」は、流域治水と言いながら、住民の傍聴をはじめから認めず、記者に取材させるのみです。このことは、流域治水の趣旨とは全くかけ離れています。球磨川流域治水協議会では、住民のWEB等での傍聴を認めているのに、傍聴も認めない密室で何を協議するのでしょうか。

さらに驚くことに、18日の同日同時間に、球磨川流域治水協議会「第3回 学識経験者等の意見を聴く場」が開催されます。よほど住民にも報道機関にも見られたくない、知られたくないからとしか考えられません。

私達は昨年11月27日、貴職あてに「白川の流域治水に関する要請書」を提出し、①白川の流域治水協議会のメンバーに、流域住民や専門家、学識者などをはじめとする流域の人材も加えること。②国土交通省が2012年の「立野ダム事業検証」で立野ダムを検証した際の、14の治水対策案をすべて、今回の流域治水協議会でも検討すること。③白川の流域治水では立野ダム建設を中止し、より早く、より安く、より確実に白川の洪水ピーク流量を下げるができる水田の保全を採用すること。以上3点を要請しました。この要請を黙殺し、住民参加を拒み、開催のわずか2日前に記者発表するだけの貴職に対し強く抗議するとともに、下記3点を強く要請するものです。

### 記

1. 白川・緑川水系流域治水協議会は、住民の傍聴を認めること。認めない場合は理由を明らかにすること。
2. 白川・緑川水系流域治水協議会開催の記者発表はわずか2日前ではなく、10日程度前に行うこと。開催通知を、同時に住民団体にも行うこと。
3. 昨年11月27日に要請した、①白川の流域治水協議会への住民参加、②2012年の「立野ダム事業検証」で検証した際の14の治水対策案の検討、③白川の流域治水における田んぼダムの採用、以上3点を検討すること。

以上